

第1回 ミドルステージ研修

令和5年8月4日(金)

講演 「遊びにおける学びと保育者の〇〇」

講師 奈良教育大学 教授 廣瀬 聡弥氏

1. 研修の目的

- 保育者の専門性を活かし、子どもたちの育ちや学びを保護者と共有していくことを目的に、発信やツールのあり方について考える。
- 幼児教育・保育の質の向上を目指す中で、地域や小学校との連携について考える。



2. 講演内容

- ☆教育とは文化的・社会的な価値を計画的に伝える営み☆ (教育は人が育つ根幹)
- ・私達は、文化や社会形成のための根幹に携わっていることに自信をもつことが重要である。
- 保育者の質を高めるためには**

ミドルステージ保育者が大切 **なぜ、大切なのか？**



・経験すれば、みんなエキスパート？

エキスパートの認知

- ・洗練され、統合された知識の活用
- ・自動化や即興性 (考えなくても動く)
- ・問題に対し、より少ない労力で対応が可能 (熟慮した経験の自動化)



様々な経験によって、ルーチンを獲得することができ、効率的に保育を実践することが可能になる。
その時期が、ミドルステージ。

しかし、保育者は様々な子どもや、日々変化する状況の中で実践している。

・エキスパートになるために

- ・素晴らしい保育者は、人知れず努力している。つまり、自動化への抵抗。
- ・他の保育観察など様々な文化の中で保育者としてどうあるかを模索し、省察し、力量形成をしている。
- ・なぜ、そのようにしているのかを絶えず問いながら保育を行うことが大切。

☆「遊びにおける学びと保育者の〇〇」(その場で〇〇に当てはまる言葉を考え出し合う) ☆



「援助」「学び」「成長」「まなざし」など様々な言葉がでる。

「遊びにおける学びと保育者の『見取り』『子ども理解』
どうすれば良いか？→当たり前することに注目しながら改めて問い続ける。

- ・遊びは、なぜ、必要？→遊びは、旧来の行動様式を打破する新しい挑戦力となる。
また、安定安心のゆとりが成り立っているからこそ遊びが生まれる。

トキメキ・ヒラメキ・子どもの思いのための保育者の関わり

子どもの全ての遊びに関わることができないが、適切な時に保育者が「面白い」と思った遊びに関わる。関わり方として保育者の感想、共感、質問、提案など。他の子ども達の学びに繋がる。保育者と子どもが協働関係。しかし、子ども達の関心が先。ヒラメキのために、あれ？と思う経験の準備。

3. グループ討議 ドキュメンテーション（保護者に教育保育を伝える手段）

- ・ 幼児教育は結果だけではなくプロセスをしっかりと伝えることが大切。
- ・ 各グループで、参加者一人一人がドキュメンテーションやクラスだよりを持ち寄り、話をする。

<意見交流の視点>

① 保育者の意図が汲み取れる内容か。② どういう内容が伝わりやすいのか。

グループ討議まとめ

ドキュメンテーション作成にあたり大切にされてることや工夫されていること	悩みや難しいと感じるところ	頻度や掲示期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちと一緒に作成している。学期ごとにドキュメンテーションについてまとめ、手紙として配信している。 ・ 遊びのなかでどんな力が培われているかを発信し、保護者に感想を付箋に書いてもらい、やり取りにつなげている。 ・ 遊びから何を学んでいるのかを伝えることを大切にしている。 ・ スケッチブックタイプにして気軽に見れるようにしている。また保育者が面白いと感じたことや子どもたちの発した言葉なども載せている。 ・ 活動内容だけではなく、どんなねらい・意図・学びがあるかを伝える。 ・ 乳児クラスでは子どもの思いを読み取りコメントとし、また生活や遊びの中で大切にしていることも掲載している。 ・ クラスだよりに（遊びの育ちや学び）、ドキュメンテーション（子どもの姿から親子の会話に繋がるように）の内容の変化をもたせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの写真を見ることがメインになり、文章を読んでもらいにくい。 ・ 写真を撮る時間がない。人手が足りない。 ・ 遊びと育ち、保育のねらいや意図を保護者に分かりやすく伝えることが難しい。 ・ たくさん伝えたい思いがあり、文字が多くなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に2、3回 ・ 1か月に1回 ・ 週に1回



【参加者の声・気づき】

- ・ 幼児教育は重要で面白く難しい。子どもの学び等が見えにくいものであるため、保護者に発信するには「子どもの姿」「どんな学びがあるか」「保育者が大切にしていること」を伝えることが大切だと聞き、ドキュメンテーション等を作成する時の視点を学ぶ機会となった。
- ・ 各園の実状に合わせた取り組みを聞くことができた。その中で、いかに保護者に子どもの育つ姿を伝えていくかという点に、どの園も苦悩していることを知った。各園の取り組みをお互いに参考にし、ドキュメントに込める園や担任の思いが伝わる方法を模索していこうと思った。
- ・ 他園のドキュメンテーションを見せてもらい、自身の物と違う表記方法など、今後試してみたいと思う。廣瀬先生の講評にもあったように、クラスだよりやドキュメンテーションの内容に悩むこともあるが、役割を変えながら意図や意義を伝えることを大切に取り組んでいきたい。

作成者 幼児教育アドバイザー 森田 伸恵